

令和3年度「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	唐津市立北波多小学校 児童数 242人	担当者名	砂原未来 副島陽子
住所	郵便番号 847-1201 唐津市北波多徳須恵 416	電話番号	0955-64-2020

◆ご提出いただいた個人情報は、本事業のためのみに使用し、それ以外の目的に使用することはありません。なお、県における個人情報の取扱については、佐賀県プライバシーポリシー及び行動プログラム (<http://www.pref.saga.lg.jp/web/privacy/privacypolicy.html>) に定めています。

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	『本』が繋げる心と心 ～コロナ禍だからこそ、図書室から学校を盛り上げよう！～
	取組期間	令和3年 4月 8日 ～ 令和3年 11月 30日

※令和3年4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和3年11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	242人	実施日数	127日	読書冊数	29546冊	連携した団体数	3団体
	取組内容（概要）	<ol style="list-style-type: none"> 「本でつながる」を意識した取り組み 図書委員を中心とした、図書室から学校を盛り上げる取り組み 感染対策を含む、子ども達にとっての「居場所」となる図書室づくり 地域ボランティア・図書館・保護者と連携した取り組み 						
	工夫したこと	<ol style="list-style-type: none"> ①「本で学校のだれかとなつなろう！」バルーンプロジェクト 図書室の入り口に風船の紙を用意し、自分のお気に入りの本を書いて貼り出す。他にもその本を好きな子どもが書いていたり、その本を読んで書きたくなった子もいたり、1冊の本で思いを共有し、異学年交流を図る。 ②県庁まなび課の「読書ノート」の活用 毎年10月に配布される読書ノートを、全校生徒に配布し、1冊書き上げたら賞状シール・司書からのメッセージ・曳山のイラストのついたプラス券を渡す。読書ノートで子どもたちが普段どのような本を読んでいるのかを把握できる。メッセージは感想や次につながるアドバイスをする。 ③図書室での声掛け 入退室の「失礼します」「失礼しました」の一人一人の声は必ず返し、カウンターでも一言声をかける。 ①かたつむりまつり（6月）どんぐりまつり（11月） 図書委員が企画・準備・放送・司会すべてを行い、1人1人が責任者となる。感染対策・人数の混雑を予想し、2階のホールで低・中・高学年に分けて2日ずつ2週間。内容は、すごろく・読書〇×クイズ・迷路・しおりコンクールなど。 ②曳山読書パズル（10月～） 唐津くんちに登場する14番までの曳山のパズル。1冊1ピースとし、本を借りるとその冊数分パズルを渡して貼ってもらう。1枚完成するのに1008冊。何の曳 						

	<p>山が完成するか最後までわからないように、わざとバラバラに台紙を出す。</p> <p>③「くす玉わりのイベント」</p> <p>10000冊目、20000冊目に借りた子どもと前後2人ずつに、新刊を誰よりも早く読める券・本のリストから本を選べる券などのクーポンのプレゼント。くす玉わりを見に来た子ども達にも、プラス券になるくじを引かせる。</p> <p>④児童集会での手作りの紙しばい(全16枚)</p> <p>図書委員が制作した紙しばい「図書委員になりたい」。毎年人気のある図書委員。今の図書委員達は、図書委員になるためにどんなことをしたのか。図書室で実際に話していたことを題材にし、全員で脚本・作画に分かれて制作し児童集会で発表。</p> <p>3. ①図書室の机・椅子の配置換え・入り口の消毒</p> <p>②デッドスペースの活用</p> <p>カウンター横の物置状態になっていた場所に、新たに机と椅子を設置。</p> <p>③4年生によるポップ展示</p> <p>国語の授業で作成したポップを本と一緒に掲示し、図書室に来るきっかけをつくる。</p> <p>4. ①朝の読み聞かせ、図書室での折り紙教室、家読リレー、近代図書館の北波多文庫朝の読み聞かせ、折り紙教室は10月によろやくスタートした。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>1. 図書の時間や貸し出し時間などに声掛けし、興味をもった子ども達が思い思いに書いてくれた。他の人が自分と同じものを書いているのを見つけると喜ぶ姿や、異学年でその本について話す場面も見られた。読書ノートは年々提出する子どもが増えている。今年は曳山のプラス券を渡すことで、さらに提出率が上がった。家で兄弟と一緒に書いたり、友達を誘って図書室で書いたりする子どもも見られ、読書ノートが兄弟や友達をつなぐコミュニケーションツールの1つになっていると実感した。</p> <p>2. 図書まつりの運営がしたくて図書委員になった子どもが多いので、準備に余念がなく、年々クオリティが上がっている。それと同時期に「曳山読書パズル」や紙しばい制作もあり、本当に忙しくしていた。しかし、やり終えた後の子ども達の達成感は大きかったようだ。9月に唐津市は「まん延防止等重点措置」が適用され、始業式が6日になり、実質図書室が稼働したのは13日からだった。スタートが10日以上遅れ、そのまま体育大会準備に入ってしまった。しかし10月の曳山読書パズルで盛り返し、パズルは現在12枚目に突入している。4月からの貸出しは12月に入ってすぐに30000冊を超えた。2学期で達成したことは過去になく、初めてのことで。</p> <p>3. 入り口の靴箱付近にアルコール消毒を置いているので、混雑することがあった。間隔を置き、デスクガードを置くことで授業中のおしゃべりが減った。新たに設けたスペースは、大変人気があり「特別な場所」という感覚で使われている。4年生の国語で作ったポップは図書室に飾ることで、自分が作ったポップを見るために足を運ぶ子どもが多かった。他学年も目にし、自主学习などに借りたり、9分類だけでなく他のジャンルの本を知るきっかけになったりした。</p> <p>4. 折り紙教室は、今までは1・2年生中心の参加だったが、縦割り班で参加するように変更すると、高学年が低学年の横について教えるなど異学年交流が見られた。</p>
<p>これまでの取組や今後の取組予定</p>	<p>1月には14枚の曳山パズルが完成する。達成記念に曳山プラス券を希望者にプレゼントする。図書まつりのない3学期は昨年好評だった「読書おみくじ」を企画予定している。新たに設けたスペースは、教室に入ることができない子供や、つらさを感じる子ども達の居場所になれるよう、働きかけたい。</p>

北波多小学校図書室

1 ①「本で学校のだれかとつながろう！」



入り口に飾ることでほとんどの子どもが立ち止まり、自分が書いたものや、他の人が書いたものを眺めていた。

図書室の入り口

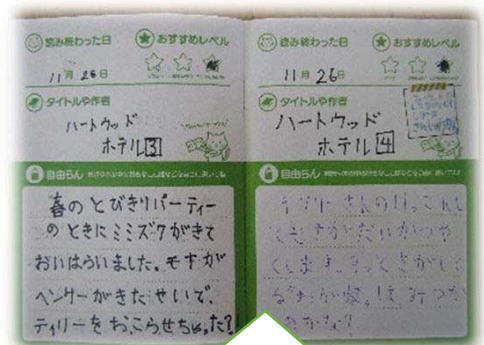


絵を描いたり、おすすめポイントを伝えたり、思い思いに書いた風船

②読書ノートと曳山プラス券



プラス券は1番～14番曳山まであり、使った後は穴をあけ、リボンをつけてしおりにすることができる。



星の「おもしろい」を「かなしい」に変えて表現する子供や、丁寧に書く子どもが多く、その本への思いが窺える。



賞状シール・プラス券・メッセージを添えた読書ノート

2. ①かたつむりまつり(6月) どんぐりまつり(11月)



すころく



迷路作成中



混雑を予想した対策



しおりコンクール受賞者の作品



選考基準は「本に関連したイラストであること」を、予め子どもたちに伝えておく。物語の登場人物を想像して描いた作品がいくつかあった。

② 曳山読書パズル



パズルを貼りながら何の曳山かを予想する



出来上がったパズル

③ 10000 冊達成! くす玉わりのイベント



たくさんの子どもがピタリ賞を狙っており、給食時に図書委員が放送で発表するのを待っている



参加人数 178 人!

④「図書委員になりたい」の紙しばい



忙しいけど楽しい！憧れの図書委員になるためにやってきたこと。「カウンターに拝む」「星に願う」「たくさん本を借りてアピール」「先生の手伝い」等々。とてもユニークな紙しばいに仕上がりに、児童集会を盛り上げた。

3. ①入り口の消毒



②デッドスペースの活用



改善前

改善後

③4年生によるポップ展示



ノンフィクションの本を読んで制作。力作ぞろいで、とても見ごたえがあった



4. ①地域ボランティアの読み聞かせ

紙しばい舞台は、読み聞かせボランティアの方の手作り！



朝の読み聞かせの様子

3年間の比較

